

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	愛三工業株式会社 (仮称)安城新工場	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県安城市東端町明祥北20-1 他28筆	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	50 人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,392 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年4月 予定	評価の実施日	2023年12月27日
敷地面積	33,106 m ²	作成者	浜田 京介
建築面積	13,216 m ²	確認日	2023年12月27日
延床面積	24,907 m ²	確認者	本間 敦



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	52%
③上記+②以外の	52%
④上記+	52%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q3 室外環境(敷地内): 4
LR3 敷地外環境: 3
LR2 資源・マテリアル: 3
LR1 エネルギー: 3
Q1 室内環境: 3

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.7

Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

音環境	N.A.
温熱環境	N.A.
光・視環境	N.A.
空気質環境	N.A.

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.7

機能性	N.A.
耐用性	3.0
対応性	4.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.7

生物環境	3.0
まちなみ	4.0
地域性	4.0

LR のスコア = 4.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.6

建物外皮の	4.8
自然エネ	4.0
設備システ	5.0
効率的	4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.6

水資源	3.8
非再生材料の使用削減	3.8
汚染物質回避	3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.9

地球温暖化への配慮	4.9
地域環境への配慮	3.6
周辺環境への配慮	3.2

3 重点項目

①地球温暖化への配慮

4.9

③敷地内の緑化

3.0

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	44.5 %
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %

②資源の有効活用

3.7

④地域材の活用

2.0

<外装材に使用した地域性のある材料>
なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>
愛知県産木材

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
愛三工業株式会社(仮称)安城新工場

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄			建物全体・共用部分			住居・宿泊部分			全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点			全体		
								建物全体・共用部分	住居・宿泊部分	重み係数			
Q 建築物の環境品質													3.7
Q1 室内環境													-
1 音環境													-
1.1 室内騒音レベル													3.0
1.2 遮音													-
1 開口部遮音性能													-
2 界壁遮音性能													3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)													3.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)													3.0
1.3 吸音													-
2 温熱環境													-
2.1 室温制御													3.0
1 室温													3.0
2 外皮性能													3.0
3 ゾーン別制御性													3.0
2.2 湿度制御													3.0
2.3 空調方式													3.0
3 光・視環境													-
3.1 屋光利用													3.0
1 屋光率													3.0
2 方位別開口													3.0
3 屋光利用設備													3.0
3.2 グレア対策													5.0
1 屋光制御													3.0
3.3 照度													3.0
3.4 照明制御													3.0
4 空気環境													-
4.1 発生源対策													3.0
1 化学汚染物質													3.0
4.2 換気													3.0
1 換気量													3.0
2 自然換気性能													3.0
3 取り入れ外気への配慮													3.0
4.3 運用管理													3.0
1 CO ₂ の監視													3.0
2 喫煙の制御													3.0
Q2 サービス性能													0.43
1 機能性													-
1.1 機能性・使いやすさ													3.0
1 広さ・収納性													3.0
2 高度情報通信設備対応													3.0
3 バリアフリー計画													3.0
1.2 心理性・快適性													3.0
1 広さ感・景観 (天井高)													3.0
2 リフレッシュスペース													3.0
3 内装計画													3.0
1.3 維持管理													3.0
1 維持管理に配慮した設計													3.0
2 維持管理用機能の確保													3.0
2 耐用性・信頼性													0.5
2.1 耐震・免震・制震・制振													0.4
1 耐震性(建物のこわれにくさ)													3.0
2 免震・制震・制振性能													3.0
2.2 部品・部材の耐用年数													0.3
1 躯体材料の耐用年数													3.0
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔													3.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔													3.0
4 空調換気ダクトの更新必要間隔													3.0
5 空調・給排水配管の更新必要間隔													3.0
6 主要設備機器の更新必要間隔													3.0
2.4 信頼性													0.1
1 空調・換気設備													3.0
2 給排水・衛生設備													3.0
3 電気設備													3.0
4 機械・配管支持方法													3.0
5 通信・情報設備													3.0

② 評価する取り組みが3項目
評価する取り組みが3項目
耐震クラスA以上

3 対応性・更新性			0.4	4.4	0.48	-	-	-	4.4	
3.1 空間のゆとり			0.3	5.0	0.31	-	-	-		
1 階高のゆとり		階高3.9m以上		5.0	0.60		3.0	-		
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率0.036<0.1 4500N/㎡以上	3.0	5.0	0.40		3.0	-		
3.2 荷重のゆとり			3.0	5.0	0.31		3.0	-		
3.3 設備の更新性			0.3	3.4	0.38		-	-		
1 空調配管の更新性		② 仕上げ材を痛めることなく、電気配線の更新・修繕ができる。 仕上げ材を痛めることなく、通信配線の更新・修繕ができる。		3.0	0.17		-	-		
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17		-	-		
3 電気配線の更新性			3.0	5.0	0.11		-	-		
4 通信配線の更新性			3.0	5.0	0.11		-	-		
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22		-	-		
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22		-	-		
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57		-	-	3.7	
1 生物環境の保全と創出		独自③		3.0	0.30		-	-	3.0	
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		4.0	0.40		-	-	4.0	
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	4.0	0.30		-	-	4.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		5.0	0.50		-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50		-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-		-	-	4.1	
LR1 エネルギー				-	0.40		-	-	4.6	
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.82	3.0	4.8	0.20		-	-	4.8	
2 自然エネルギー利用		地熱利用	3.0	4.0	0.10		-	-	4.0	
3 設備システムの高効率化		BEI=0	3.0	5.0	0.50		-	-	5.0	
4 効率的運用			0.2	4.0	0.20		-	-	4.0	
集合住宅以外の評価		② 主要な設備システムの性能評価が可能	1.0	4.0	1.00		-	-		
4.1 モニタリング			3.0	5.0	0.50		-	-		
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50		-	-		
集合住宅の評価					-		-	-		
4.1 モニタリング					3.0	-		-		
4.2 運用管理体制					3.0	-		-		
LR2 資源・マテリアル				-	0.30		-	-	3.6	
1 水資源保護			0.1	3.8	0.15		-	-	3.8	
1.1 節水		自動水栓、節水便器	3.0	4.0	0.40		-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.6	0.60		-	-		
1 雨水利用システム導入の有無		雨水利用	3.0	4.0	0.67		-	-		
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33		-	-		
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.8	0.63		-	-	3.8	
2.1 材料使用量の削減		② 独自 独自 独自 独自 独自		3.0	0.07		-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-		3.0	0.20		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			床:長尺ビニルシート、磁器質タイル 天井:岩綿吸音板	3.0	5.0	0.20		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	3.0	0.05		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			鉄骨造のため、躯体と仕上の分離が容易	3.0	5.0	0.24		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22		-	-	3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32		-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68		-	-		
1 消火剤				-	-		-	-		
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50		-	-		
3 冷媒			3.0	3.0	0.50		-	-		
LR3 敷地外環境				-	0.30		-	-	3.9	
1 地球温暖化への配慮		①		4.9	0.33		-	-	4.9	
2 地域環境への配慮			0.3	3.6	0.33		-	-	3.6	
2.1 大気汚染防止		燃焼機器の使用なし		5.0	0.25		-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50		-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.5	0.25		-	-		
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25		-	-		
2 汚水処理負荷抑制		独自		3.0	0.25		-	-		
3 交通負荷抑制		独自		5.0	0.25		-	-		
4 廃棄物処理負荷抑制		独自		3.0	0.25		-	-		
3 周辺環境への配慮			0.3	3.2	0.33		-	-	3.2	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40		-	-		
1 騒音		独自		3.0	0.50		-	-		
2 振動		独自		3.0	0.50		-	-		
3 悪臭				-	-		-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40		-	-		
1 風害の抑制				3.0	0.70		-	-		
2 砂塵の抑制				1.0	-		-	-		
3 日照障害の抑制				3.0	0.30		-	-		
3.3 光害の抑制			0.2	4.4	0.20		-	-		
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		チェックリストの過半を満たす		5.0	0.70		-	-		
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30		-	-		

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

三菱工業株式会社 (仮称)安城新工場

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.9
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.9	0.10	
② 資源の有効活用				3.7
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.4	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.17	外構緑化:44.5%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				2.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	1.0	-	愛知県産木材

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 愛三工業株式会社 (仮称)安城新工場

計画上の配慮事項	
総合	利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 ライフサイクルコストの低減に努め、地球環境保護に配慮している。
Q1 室内環境	評価対象外。
Q2 サービス性能	壁長さ比率を低くし、階高を確保することで空間にゆとりをもたせている。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内に十分な緑地面積を確保している。
LR1 エネルギー	LED照明器具、太陽光発電設備を採用している。
LR2 資源・マテリアル	節水器具などに加えて、省水型機器(節水型便器など)などを用いている。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率が、一般的な建物(参照値)に対して52%
その他	特になし。